

北海産業

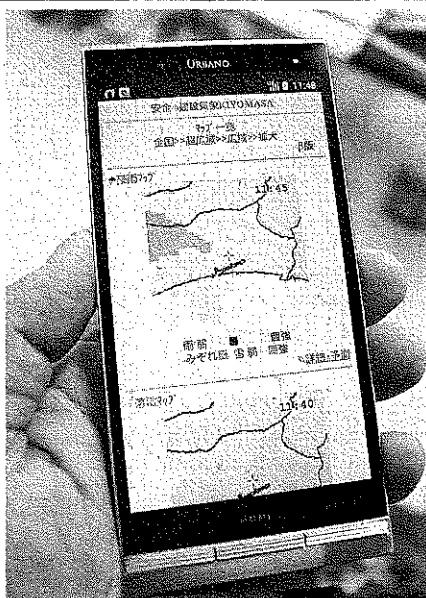
安全管理や防災に提案

建設気象 モバイル「KIYOMASA」

北海産業(本社・苫小牧)は、安全建設気象モバイル「KIYOMASA(キヨマサ)」を中心とした現場の安全衛生管理を提案している。雨や雪の降る動きを1km範囲(メッシュ)で5分ごとに予測し、下水道や河川、水門工事などの進行判断で参考にする。雨の強さは16段階で予測。降雨10mm以下なら1km単位で判別するため、コンクリート打設の可否判断にも使える。昨年の連続台風以降、水害に対する防災意識は現場でも高まっており、同社では今後もニーズが強まるとみている。

1km範囲の雨など予測

建設気象PROのシリーズ名で、安全気象モバイル「KIYOMASA」と海象気象予測「KAIU」。



HO(カイホ)、粉じん飛散予測「TOBASAN(トバサン)」を取り扱う。いずれもライブシ

現場に関する気象情報を携帯電話の画面から確認できるシステム。雨や雪の降る60分先の様子を1km範囲、10分単位で予測する。発破時の安全確保に現場に関する気象情報を携帯電話から確認

有効な落雷の危険度も予測できるほか、朝礼時に周知できるように熱中症情報も備える。

先日の波や風の動きを見通す海洋土木のプロツール。波の高さは熟練観測

者(目視に近い)「有義波高」で示し、より実践向けに最大瞬間風速も網羅する。浚渫やケーソン設置など特殊作業船の出港判断に使える。

コスト削減にも結び付く。そのほか、気象災害リスクを事前調査できる施工前向けの「ハザードプレサーチ」、異常気象による作業中止を記録で証明する施工後向け「エビデンス帳票出力サービス」を用意。KIYOMASAによる気象情報と連動し、現場設置のサイレンやスピーカーで自然災害の危険を知らせる「カナリ」もラインアップする。

TOBASANは、掘削や解体などで発生する粉じん飛散の様子を10m範囲で予測するシステム。掘削や法面、地盤改良など22工法から現場に合ったものを選べば、実態に沿った粉じんの飛散量や方向を予測できる。住宅街や田畑など現場周辺の環境対策になるほか、散水作業の効率化や

コスト削減にも結び付く。そのほか、気象災害リスクを事前調査できる施工前向けの「ハザードプレサーチ」、異常気象による作業中止を記録で証明する施工後向け「エビデンス帳票出力サービス」を用意。KIYOMASAによる気象情報と連動し、現場設置のサイレンやスピーカーで自然災害の危険を知らせる「カナリ」もラインアップする。

現場で活用してもらえれば」と話している。今後は携帯電話だけでなく、事務所に詰める現場代理人向けに、デスクトップやノート型パソコンで見られる仕様も検討している。

ネスウェザー(本社・東京)が開発した製品で、北海産業は2015年から道内代理店を単独で務めている。

KIYOMASAは、現場に関する気象情報を携帯電話の画面から確認できるシステム。雨や雪の降る60分先の様子を1km範囲、10分単位で予測する。発破時の安全確保に現場に関する気象情報を携帯電話から確認

現場で活用してもらえれば」と話している。今後は携帯電話だけでなく、事務所に詰める現場代理人向けに、デスクトップやノート型パソコンで見られる仕様も検討している。

KIYOMASA、KAIU、TOBASAN

現場で活用してもらえれば」と話している。今後は携帯電話だけでなく、事務所に詰める現場代理人向けに、デスクトップやノート型パソコンで見られる仕様も検討している。

北海産業

現場周辺の天候配信

気象モバイル取り扱い開始

建機リース・レンタルの北海産業(本社・苫小牧)は、建設現場向けに豪雨や大雪などの気象情報を、ピンポイントにリアルタイムで配信する「安全建設気象モバイル KIYOMASA」の取り扱いを始めた。ライフビジネススウェー(同・東京)の北海道地区代理店として、利用者のサポートを展開する。

ライフビジネススウェーは、気象庁や国土交通省の情報を基に独自の解析・予報技術で、1キロメッシュの高解像度な気象予報・情報として配信するサービスを手掛けている。

KIYOMASAは、これらの情報を主に陸の現場向けにWebを通じ、1日最大288回の更新でリアルタイムに配信するサービス。配信情報は60分先の豪雨や降雪、1時間単位の気温や雨量、風向きなど。高度別の最大風速予測や雷、竜巻や突風、台風や熱中症といった現場稼働の判断、安全管理に役立つ情報も提供する。

条件を登録しておけば、最大20のメールアドレスに注意喚起メールを送信する機能も持つ。このほかオフショアの情報提供、海洋土木用に別途、波や風の情報を最大19.2時間まで予測する「KAIHO」をラインアップする。

一般的な気象情報サービスより細かなメッシュで詳細な情報を利用できるため「現場周辺の気象状況や豪雨や大雪、突風といった天候の急変をリアルタイムに把握し、工程管理や安全管理に利用することができる」(三浦秀昭常務)。

国土省の新技术情報提供システム(NETIS)で設計比較対象技術に登録済みで、技術提案への活用にも役立つという。

問い合わせは最寄りの北海産業営業所か同社ホームページまで。